

## 東京優駿

過去 5 年のダービーはディーピンパクト産駒が 4 連覇中。

連対馬を出した種牡馬もキングカメハメハ、  
ハーツクライ、オルフェーヴル、エピファネイアのみ。

ダービーに適した種牡馬を配合した上で、  
さらに抜きん出るには、米国型の快速血統を母系から強化することが重要。

特注血統はインリアリティ。  
今でも JRA の芝 1000m のレコードホルダーは  
インリアリティ系(カルストンライトオ)。

昨年の勝ち馬シャフリヤール、一昨年の勝ち馬コントレイル、  
3 年前の 2 着馬ダノンキングリーも母父が米国型。  
そしてインリアリティを持つ繁殖牝馬との配合でした。

本命ダノンブルーガ

父がハーツクライ。  
産駒にはダービー馬ワンアンドオンリー。  
連対馬も複数。そして母父ティズウェイは米国型血統。  
特注血脈のインリアリティ系。

母系にニニスキ。一昨年のダービー 2 着のサリオスも  
父がハーツクライで母方にニニスキ。  
堀調教師の管理馬。  
ディープ同様、配合、育成ノウハウが成熟したハーツクライ産駒。

対抗はキラーアビリティ。  
父は産駒が 4 連覇中のディーピンパクト。

母父が米国型。こちらもインリアリティを持つ繁殖牝馬。  
だからこそ2歳戦からずば抜けた直線スピードを発揮。

ダノンブルーガもキラアビリティも皐月賞は  
内枠を引いた地点で競馬が終わっていました。

皐月賞の内枠は直線スピード型が大幅にパフォーマンスを落とす路盤。  
特にトップスピード強化型血統の減速幅は相当。

キラアビリティの皐月賞は気難しさも出していました。  
ゲートを立ち上がり気味に出た挙げ句、前に行こうとすれば  
リズムを崩してガス欠します。

今回は出たなりのリズムで追走。  
直線でスピードを引き出すことに専念すれば一変は十分にあります。

古い話になりますが、スペシャルウィークも  
京都大賞典で似たような気の難しさを先行して惨敗。  
体重を絞って後方待機でメリハリをつけた天皇賞秋では復活。

サンデーの直線スピードは気性のメリハリで引き出されるもの。  
武史騎手はそれを理解している一流騎手。  
燃え尽きた可能性もありますが、やれるだけのことをやって  
燃え尽きていたのなら仕方ありません。何よりこのオッズは舐めすぎです。

3番手プラダリア。  
父がディーピンパクト。母父クロフネは米国型。  
系統はヴァイスリージェント系。3代母リトルオードリーはオークス3着。

ディープ×ヴァイスリージェント系の組合せに16年のダービー馬マカヒキ。

今年の大阪杯を勝ったポタジエもディープ×ヴァイスリージェント系の配合馬。

今開催の東京芝G1はディープの父サンデーサイレンスと

ヴァイスリージェントを両方持つ馬が連続で激走中。

オークスで 10 人気 2 着のスタニングローズは母父がクロフネ。  
母系にサンデーを持つ配合馬。

ヴィクトリアマイルを勝ったソダシは父がクロフネ。  
母系にサンデーを持つ配合馬。

NHK マイル C を 18 人気で 3 着のカワキタレヴリーは、  
母父がディーピンパクト。父ドレフォンの母父はヴァイスリージェント系。

今年の上位人気はダービーに実績がない配合馬も複数。  
(前走までの能力比較ならば)前走だけ走ってしまえば足りてしまう  
低レベルメンバー。  
ダービーに実績がない血統馬が揃ったので、  
前走から上積みを見せる馬が少なければプラダリアが  
馬券圏内に繰り上がります。

## 目黒記念

本命はマイネルウィルトス

父スクリーンヒーロー。自身も産駒も同コース重賞を優勝。

マイネルウィルトスもすでに同コース重賞で連対。  
非根幹距離重賞はリピーターが走りやすい条件。

今開催の東京芝でもスクリーンヒーロー産駒は好調。

2500m 以上のキャリアはまだ 1 戦ですが、最適条件の可能性も高いです。

相手も父か母父ロベルト系の 17、18、15。